

**「南陽市自分ごと化会議」からの
中学校のありかたについての5つの提案
～南陽市中学校の教育環境を考える～**

(中間案)

※第3回会議までの意見反映

2023年11月23日

「南陽市自分ごと化会議」委員一同

< 目 次 >

はじめに	1
1 「南陽市自分ごと化会議」の概要.....	5
2 「南陽市自分ごと化会議」からの提案.....	7

はじめに

無作為に選ばれた私たち委員は2023年7月から10月まで4回にわたって、南陽市の中学校の教育環境について議論を重ね、最終的には5つの提案にまとめました。

これまでの議論から見えてきたのは、私たち委員は、中学生ひとり一人がやりたいことを諦めさせたくないという思いと、彼ら彼女らが将来的に南陽市で生活し続けてほしいという相反した思いがあるということです。そのような思いを持ちながら、私たち市民と学校を運営する行政、民間企業や関係団体などが連携し、みんなで中学校教育に関わっていきたいと感じるようになりました。

人口減少とともに市の中学生数は右肩下がりで減少が続いており、市の推計によると、令和15年頃にはクラス替えができなくなる学年が発生する見込みです。生徒一人一人にきめ細かな教育が実施できるなど、小規模校には小規模校の良さがありますが、教員の確保やチームスポーツの運営、他の生徒と切磋琢磨しながら多様な体験をするためには適正規模の学校での学びが重要だということを知ることでもできました。

また、現在の市内の3校の中学校のうち、2校については築年数が40年を経過しており、大規模な修繕や建て替えを行う時期にさしかかっていることもわかりました。近隣の同規模の町ではすでに中学校は1校となっていますが、3校の中学校を運営する南陽市では、3校分の維持管理費用がかかるだけでなく、コンピュータ環境、空調設備やバリアフリーなど、現代に求められる設備を維持していくためには大掛かりな修繕費用も必要になります。学校施設は単なる教育施設ではなく、地域にとっても関わりの深いものであることから、私たち市民も含めて今後のありかたを考えていくことが重要です。

私たち委員は4回の会議の中で「中学生がしたいことを諦めさせたくない」、「地域との関わりの中で南陽市のことを知ってほしい」という思いを実現するため、現状の枠にとらわれず、何が必要であるのかを幅広く議論しました。

中学校と地域の相互交流の機会を増やし、中学生のニーズに地域が協力できるところは協力し、地域としては学校行事などに積極的に参加することで、中学生に多様な経験をさせてあげたいとの意見もありました。

中学生には、南陽市が誇る産業や文化、歴史を知ってもらい、市全体で私たち市民ができることをしたり、地域と中学校で助け合ったりすることで、子ども、大人に関わらず、南陽市全体で人が成長できる環境をつくること出来る

のではないのでしょうか。結果として、一人でも多くの子どもが南陽市に住み続け、いずれは私たちと同じように中学生に対してそれぞれの経験を伝えてくれると思います。例えば市外で活躍することになっても、この市で育ったことを誇りに思ってその経験を市に還元してくれるでしょう。

今回の自分ごと化会議では、他市に例を見ないほど10代や20代の若年層が参加し、つい最近の実体験に基づく提案が多数出ました。この提案を市としての考えに活かしていただくことを強く望むとともに、今まで以上に行政も私たち市民も、みんな一緒になって活発な意見交換が行われ、その場での意見が今後の南陽市のために活かされることを期待します。

令和5年11月
南陽市自分ごと化会議委員 一同

1 「南陽市自分ごと化会議」の概要

(1) 名称

「南陽市自分ごと化会議」

(2) 委員の選出

選挙人名簿から無作為に抽出し、 委員参加の案内を送付した数	1,000 名
応募（参加）した委員 （応募率）	31 名 (3.1%)

(3) 委員名（50 音順）

※ 名簿の掲載に当たっては、参加者の承諾をいただいています。

(4) コーディネーター

石井 聡 (逗子市福祉部部長)

(5) テーマ及び各回の議論

ア テーマ：「南陽市中学校の教育環境を考える」

イ 各回の議論

(ア) 第1回会議：2023年7月23日(日)

- ・自分ごと化会議の概要説明(構想日本)
- ・テーマについての現状と課題の説明(市)
- ・委員の自己紹介 など

(イ) 第2回会議：2023年8月20日(日)

- ・「南陽市の中学校教育の現状」などについて議論
- ・改善提案シートの記入(ほか)

(ウ) 第3回会議：2023年9月17日(日)

- ・ナビゲーターの参加
- ・「中学校と地域の関わり」などについて議論
- ・改善提案シートの記入(ほか)

(エ) 第4回会議：2023年10月21日(土)

・

※各回の議事録は南陽市 HP に掲載されております

2 「南陽市自分ごと化会議」からの提案

以下の提案は、「南陽市中学校の教育環境を考える」というテーマに関して、私たち会議参加者が4回にわたって議論してきたことや各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 地域の宝を生かし、地域に貢献する学びをつくる

提案

2. 一人一人を大切にする学校をつくる

提案

3. 多様な体験の機会が提供される学校をつくる

提案

4. よりよい学びの環境をつくる

提案

5. 中学生が安心して過ごせる場をつくる

1. 地域の宝を生かし、地域に貢献する学びをつくる

南陽市では、市民一人一人が学校・地域の枠を越え、市民総ぐるみで取り組む「地域総合型教育」を中核に置き、幼保小中一貫で地域や家庭、学校が連携・連動したり、体験活動など「本物に触れる機会」を大切にしたりする、地域に根ざした教育を行っています。

生徒が成長を共にしたこの地域には、素晴らしい産業や文化、歴史があり、これらの魅力や誇りを地域主導で伝えることが重要です。その結果、郷土のことを理解した大人に育ち、未永くこの地域に残ったり、たとえ市外に出ていったとしても離れた場所から郷土を応援したりすることにつながります。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 市民

- ① 地域の行事や活動（ボランティアなど）に参加する
- ② 地域の会議で発信する
- ③ 中学生への声かけを行う
- ④ 機会があれば中学校に行く
- ⑤ 地域の人の特徴を知る
- ⑥ 中学校の情報にアンテナをはっておく
- ⑦ 親や地域住民が職業について中学生へ話す場をつくる

地域

- ① 市報などで南陽市の職業のPRページを作る
- ② 歴史、施設、文化など地域のことを整理して紹介する
- ③ 中学校に行き南陽市のことに関する講義を行う
- ④ 住民はもっと学校に関わって、運動会や文化祭などの学習発表会に生徒の活動する姿を参観する機会を作る
- ⑤ 中学生がもっと地域に関わる機会を作り、地域の行事に協力してもらうことで中学生の社会参加の機会を増やす

行政

- ① 新規企業の立ち上げサポート
- ② 地域や企業に講師をお願いする
- ③ 中学校の行事に地域をもっと巻き込む
- ④ 小中学校でのイベントで南陽市のアピールをする

**その他の
主体**

- ① 高校の先生だけではなく、高校生が中学校を訪問し、生の声を届ける
 - ② 地域の学校として、学校側は地域の援助に対して考える機会を作る
 - ③ 地域住民（趣味の会や老人会）に中学校の空き教室などを提供する
 - ④ 南陽市内の企業や施設が中学校に協力し、〇〇する
-

«その他の意見»

- ・ 大きな観光パンフレットに載っているような有名施設ではなく、地域の小さな神社のいわれや先人の願いなどをきちんと調べ、整理しておいて中学生に教える機会の参考にする。
- ・ 会議の中で「高校生から中学校に行く」とあり、機会があるなら行きたいと思った。私が中学のとき、高校の先生が説明しに来るのがあったが、生徒の生の声を聞きたいと感じた
- ・ 中学生自身が思い出深い生活を送ることができるような教育環境になればいいなと思います

2. 一人一人を大切に作る学校をつくる

多感な時期である中学生はそれぞれが目に見えない悩みや不安を抱えています。これらを解消するためには、それぞれの立場から生徒一人ひとりに目を向け、一体となって関わっていくことが求められます。そのためには、専門職だけでなく、年齢の近さから中学生が気軽に話すことができる高校生や大学生の協力や、幅広い地域住民の協力を得て、多様性を認め合う環境づくりが重要です。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち

- ① 不登校や悩みを抱える生徒の声を聞く

市民

- ② ハンディキャップについてそれぞれが理解する

地域

- ① 中学生とコミュニケーションをとる
- ② 中学校から必要とされている場に積極的に参加する
- ③ 閉鎖的にならず、多様性を認める

行政

- ① カウンセラーの人材を増やす
- ② 中学生の要望などを知るアンケートなどを積極的に行い、それに応じて対応する
- ③ 男女の体操服を統一したり、制服を選択制にしたりするなど様々な生徒に配慮した環境を整える

その他の

主体

- ③ 企業でできることを提案し、学校や地域と協力しながら実施する

3. 多様な体験の機会が提供される学校を作る

生徒数の減少により、部活動や各行事などの集団での活動の規模が縮小する傾向にあります。これは、互いの人間関係が深まったり、目が行き届いたりする良さがある反面で、多様な考えに触れたり、多様な体験をしたりする機会が減ってしまうことを示しています。これらを解消するため、学校の配置を検討するとともに、私たち市民や民間事業者が積極的に関わることで中学生に多様な体験の機会を提供することが重要です。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 市民

- ① 各中学校で実施している部活動の種類や部員数を知る
- ② 南陽市が「強い/力を入れている」と認識されているスポーツや文化活動について知る（全国大会への出場など）
- ③ 生徒のニーズや市からの情報を知るため、自発的にインターネットなどを活用して情報を集める
- ④ 親や地域住民が職業について中学生へ話す場をつくる

地域

- ① ①各分野の経験者は指導者（外部コーチなど）として協力する
- ② 南陽市や各地域で力を入れている（特色ある）スポーツ/文化活動をみんなで共有する
- ③ スキーを教えられる人を学校に派遣する
- ④ 生徒や市のニーズの中で可能なものをピックアップし、可能な範囲で行政のサポートをする
- ⑤ 市報などに地域からも発信する
- ⑥ 高校と中学校を結ぶ機会をつくる

行政

- ① 知識のある先生や民間事業者に顧問の先生をお願いするとともに地域住民からも協力者を募る
- ② 各学校や地域の状況、生徒の要望等の把握、周知に努める
- ③ 部活用のスクールバスを運用する
- ④ 特定の分野の指導者を招致するなど、市を挙げてスポーツ/文化活動を盛り上げていく機運を高める

- ⑤ 生徒がしたいことをあきらめさせない環境を整える
- ⑥ 試合会場や活動場所の提供、市報での呼びかけ、学校間の連絡調整を行う
- ⑦ 学校の今後のことについての検討の場において委員を選出するときは充て職で安易に選ぶのではなく「人」で選ぶ
- ⑧ 教員の配置の適正化、市費負担による協力員の増設、スクールサポートスタッフを拡充する
- ⑨ 部活と地域が関わることを設ける
- ⑩ 合同で練習できるような場所とコーチの確保をし、学校同士でチームを作る
- ⑪ 個人で行う種目（文化部含む）については、学校の枠をこえて活動する
- ⑫ 部活への積極的な協力を要請する

- ① 一般のスポーツチームや文化サークルと中学生が共同で活動する機会を設ける
- ② スポーツ団体や文化・芸術関係団体からも、中学生向けの競技会や講座を積極的に開催していく
- ③ 民間企業の用具の貸し出しの利用を増やす
- ④ 行政の施策に協力する
- ⑤ スポーツ経験者によるクラブチームを結成する
- ⑥ SNS で発信し、有志による指導などを行う
- ⑦ 学校主催ではない職業体験の機会を設ける

その他の 主体

«その他の意見»

- ・ 部活動の柔軟化の問題については、部活動の地域移行化とも密接に関係することであり、教員の働き方改善にもつながる。 また、「部活用のスクールバス」については、各学校と活動場所（他の学校や外部施設）まで生徒を送迎するもの。
- ・ 部活の時間を区切ることで、メリハリのある活動ができ（長時間の活動にならない）、各学校の教員の負担軽減にもつながる（月曜は A 中、火曜は B 中の教員が部活を見る、といった状況）。

- ・ 将来的な中学校の統合については、人口減少・少子化に加え、現校舎の耐用年数や市の財政状況等を考慮しても、議論を先送りできない問題と考える。先日の会議では、高畠町や川西町は1校統合した、と話されていた委員がいたが、米沢市についても明確なロードマップが示され、将来的に3校になることが決定している。
- ・ 南陽市において、もし将来にわたり「統合をしない」という選択をし、現行の3校のままでいったとしても、学校運営を考える際、ハード・ソフトの両面で様々な問題が生じることが懸念される。特に、この時世、小規模校だとデメリットの方がメリットを上回ると思うが、そのようなメリット・デメリットについても整理する必要があると思う。
- ・ 南陽市の歴史的経緯を考える際、仮に1校に統合するとした場合、市民からはどこ（赤湯・宮内・沖郷）に建てるか（どの中学校を存続させるか）について様々な意見が出ると思われるが、市民アンケートを実施するなどし、具体的に動いていかなければならないものとする。
- ・ 少しでも人口減少を食い止めるため、若者の南陽市への定住促進はもちろん、南陽市へのUターンやIターン、移住についても力を入れていく必要があるものとする。
- ・ 生徒数減少はいいことも悪いこともあり、決して小規模校が悪い訳ではないし、大規模校で一人ひとりに目が届きにくいから悪いということでもない。
- ・ 部員の数が減って、他校と組んで部活動ができるからいいということでもないと思う。やはり一つの学校としての活動できることとは違うと思う。学校全体の生徒のまとまりや一体感は違うのではないかと。

4. よりよい学びの環境をつくる

市の中学生それぞれが自分のしたいことをし、個性を伸ばしていくためには、適正規模の学校で十分な機会を与えるとともに、時代に合ったよりよい学びの環境を整えていく必要があると考えます。同時に、学校は避難所に指定されていることから、地域にとっても重要な施設です。よりよい学びの環境をつくるためには、近い将来における中学校の統合や大規模改修は避けては通れない道であり、市全体として方向性を決めていくべき課題だと考えます。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 市民

- ① 中学校の生徒数の変化の実情や今後の予測数を知る
- ② 市民プールを積極的に利用する
- ③ 中学校を新設するか改修するか考える

地域

- ① ボランティアに協力する
- ② 将来的な中学校統合の必要性を認識する
- ③ 統合後の空き校舎の利活用について行政とともに議論する
- ④ 地域と学校の繋がりを再考するため住民発意で説明会を実施する
- ⑤ 校舎の見学を行い、実体験をもって学習環境として適切かどうかの確認をする

行政

- ① 将来的な中学校統合の議論について、少子化、現校舎の築年数の問題も含めて避けては通れない課題であることを市民に知ってもらう
- ② 空き校舎の利活用方法について地域とともに議論する
- ③ 部活動、授業で使用できるプールを作り、休日や時間帯によって市民も使えるようにする
- ④ 校舎建て替えのための予算確保と広報活動を行う
- ⑤ 公共施設の利用状況の把握と課題の認識をもとに、学校施設の活用や学校施設との併設が可能か否かの検討をする
- ⑥ 使用されていない学校の施設を公民館や図書館、地域の集会所な

どとして有効活用できないか検討する

- ⑦ 中学校を統合する際は南陽市の真ん中に設置を検討する
- ⑧ 地域における学校の存在の重要性と、安全な学習環境作りのためのサポートの重要性を地域民に繰り返し説明する
- ⑨ 実際の利用者や有識者の声を聞きながら中学校のバリアフリー化を進める
- ⑩ 利便性や安全を考慮し、必要に応じてスクールバスを導入する
- ⑪ 学識経験者や民間コンサル等の専門家の意見を取り入れたり、他自治体の事例を参考にしたりしながらよりよい学校施設について考える

- ① 東南置賜地区の高校の統廃合とも関連するので、高校統廃合の議論も注視する

その他の

主体

- ② 民間企業が公共施設の管理をする
- ③ 寄付金に協力する
- ④ それぞれの立場で学校説明会、地域の行事等に積極的に参加し、学校や地域の課題を把握する

«その他の意見»

- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインを考慮した設備が整っていないことに関しては、必要とする人がいないから問題にならないのではなく、必要な人はそれらが無い施設を避けるから問題視されていない。
- ・ 学校施設を維持管理するために必要な年平均額3パターンでのシミュレーションでは、いずれのパターンも大掛かりな予算が必要である事、特に改修の場合もことのほか費用が掛かることがわかり驚いた。また、公共施設の維持管理費も大きく、改めて市民、利用者として考えなければならないことが沢山あることに気が付き学びになった。子供人口の減少により学校の統廃合は避けられない現実とは思いますが、それに伴うデメリット（地域から学校がなくなることは地域の衰退につながる、統廃合による子供の精神的・身体的負担の増加）を忘れず、地域民が積極的に学校（学生）を守っていかなければならないと痛感した。
- ・ 将来を見据えた学校の統廃合等について行政中心ではなく、地域住民との合意形成を目指す。

5. 中学生が安心して過ごせる場をつくる

南陽市では若い子どもに対するサポートは手厚いものの公共の自習施設が図書館しかないことや、生徒同士が集まって勉強以外のこともできるスペースが不足しているなど、学校以外に中学生が過ごせる場が少ないことがわかりました。生活様式の変化に伴い、常に自宅に家族がいる状況ではない現代では、中学生の放課後の居場所の整備が求められます。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち

① 今ある公共施設を積極的に使う

市民

② 学校教育に可能な限り協力する

地域

① 部活動の地域移行、協力員での参加、学校支援ボランティアなどに協力する

② 中学生が自習に使うことができる場所を増やすために地元の企業に声をかけてみる

行政

① 新しく公共施設を建てずに、使える施設を利用してもらう

② 自習専用の場所を設ける

③ 自転車通学を認める

④ 公共施設を中学生、地域のニーズに合わせて提供する

その他の

主体

④ 企業の一室を借すなどして中学生が利用できる場所を提供する

«その他の意見»

- ・ 「当事者の声を聞く」という言葉にハッとさせられました。